

いずみニュースレター

2020年(令和2年)10月発行 第17号

暑い夏に思うこと

社会福祉法人いずみ 理事 川畑庄二

私たち人間には、「自律性体温調節機能」(暑いと汗をかいて熱を逃がし、寒いと筋肉を震わせて熱を作り出す。こうした反応は自らの意思とは関係なく自律的に起こる)が備わっていて、健康が維持できるようになっています。

しかし、年を重ねたり体に障害があつたりすると、その調節も上手に働かないこともあります。当法人の各事業所においても、利用者の皆様が、元気に快適に過ごせるように、水分補給やエアコンを上手に使うなどして、体温の調節に心掛けています。

さて、私が生まれ育ったのは、鹿児島県の種子島です。皆さんもご存じのように、鉄砲伝来とロケットに象徴される「歴史と未来」の島です。

子供の頃は、蝉の鳴き声、入道雲やハイビスカスの花、青い海の中で、夏を満喫していました。

夏になると思い出するのが、稲刈りです。種子島では、4月頃にはもう田植えをし、台風が来るお盆前には収穫を終えるようにしています。ですから、7月の終わりから8月の初めにかけては、どの田んぼでも稲刈りが行われていました。

暑さの盛りのこの時期の稲刈りは、体には堪えます。小川で冷やしたお茶を飲んだりスイカを食べたりして暑さを凌いでいましたが、その中で一番大変だったのが、刈り取った稲を運ぶことです。

田んぼは道路から細い道を下ったところにあります。その田んぼから、坂道を登って道路まで刈り入れをした稲を、背負って運ばなければなりません。その仕事の子供の頃の私たちの役目でした。藁が首筋に張り付いて気持ちが悪かったのを覚えています。暑くて辛くて「はあーはあー。」と息が絶え絶えになった記憶もあります。

夕方になると、田んぼからそのまま海にまっしぐらです。汗と藁だらけになった体を海水で洗い流し、気持ちよく泳ぐのが何よりの楽しみでした。

暑くてたまらなく、大変な労働でしたが、何と懐かしいことでしょう。長い年月が経ち、今ではよい思い出として振り返ることができています。

今年の夏も猛暑でした。特に新型コロナウイルス感染拡大によって、普段とは違った重苦しい毎日でした。

新型コロナウイルスの感染が収束し、今年の夏を振り返った時に、私たちはどのような思いをもつのでしょうか。大変さや苦しさを乗り越えたことで、きっと前向きに生きていくことの素晴らしさを感じていることと思います。そしてそのような日が来ることを、今から心待ちにしています。

製作活動

ひまわり(児童発達支援事業)

ひまわりは今年度2名の新入園児を迎え、在籍13名になりました。体操、散歩、音楽、手遊び、感覚遊び、PT 訓練など楽しく活動を行っています。

子どもが保護者、職員と共に楽しみ、成長を感じられる活動の一つとして、製作活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4, 5月の緊急事態宣言による自粛期間中は、在宅支援の一環として製作キットを郵送し、ご家庭でも楽しんでいただきました。この他、リモート支援の一環として、体操の DVD を送付したり、お電話でご家庭内の様子をお聞きして、心配事が少しでも和らいでいただけるようにしました。またその後は、保護者の皆様のご要望に少しでもお応えできるよう、新しく、機械浴槽による入浴サービスも始めました。感染症予防対策としては、日常の手洗い、消毒の徹底として、消毒の回数を増やしたり、換気を定期的に行っています。

今後も、季節、行事を意識しながら一人一人の成長、発達、興味に合わせて取り組んでいきたいと考えています。

(担当:西島)



4 ・ 5 月
かぶと・写真プレートを家庭や
ひまわりで作り、飾りました。



6月
感触を楽しみながらセロファン
を貼りあじさい製作、
父の日プレゼントでカード作
りをしました。



7月
織姫・彦星の七夕製作、短冊書き・
大きなビニール袋に新聞紙を入れ、
クラゲお化けを作りました。



上半期 人気の遊び大賞

あゆみの家幼児部(児童発達支援事業)

長い梅雨の時期は室内遊びが続きましたが、その中で人気が出たのが「風船マット」です。ステイホームでも話題になっていたので取り入れてみました。布団圧縮袋に風船を入れて空気を抜くと、不思議な事に上に乗っても風船は割れません。今では遊びの定番となり、乗って揺れたり寝転んだり、ふわふわの感触も楽しみながら遊んでいます。

ようやく夏が来て、水遊び。密集しないようにビニールプール 2～3 個に分散して、感染対策を行いながら遊んでいます。みんな水遊びが大好きで、顔に水がかかっても平気で笑顔いっぱいです。今年は噴水プールも新しく加わりました。水が飛び出ると、ちょっとびっくりする子、大喜びする子もいました。

今年は新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言による自粛期間があり、登園したくても控えざるを得ないお子さんが今も少なからずいらっしゃいます。在宅中に少しでも普段の活動が楽しめるよう、リモート支援の一環として、朝の会や誕生会をリアルタイムで動画を発信したり、製作キットを送付しました。動画発信は、コロナとは関係のないところで、単独通園中の様子を保護者の方が見れて嬉しいと、保護者の方に好評で、今後も日常的に発信していきます。コロナ禍で普段と違うからこそ、新しい発信ができたことは、幼児部にとって有意義でした。これからも発想の転換をして、支援の向上につなげていきたいと思えます。

(担当:小野)



ひまわり放課後等デイサービス(スマイル)の夏休み

ひまわり(放課後等デイサービス)

夏休み前は、緊急事態宣言による自粛期間や、学校も時差登校等、普段と違う日々でした。放デイを利用できない時は、リモート支援の一環として、体操のDVDや製作キットを送付したり、お電話で様子をお聞きしました。また、音楽療法等の活動や、児童同士のやりとりができるよう、リアルタイムで動画も発信しました。ご自宅で製作したものを写真で届けてくださる方もいて、それを1枚の用紙に収めると、それもまた素敵な作品になりました。

そしてまちにまった夏休み！！

・・とはいえ、例年通りに行事を行うのは制限がありました。それでも、こんな時だからこそみんなで楽しめるものを！とスタッフで夏のイベントを考え、活動の中で盆踊り、寒天の感触あそび、歌って奏でての音楽会、子どもたちのアイデアから生まれた縁日等、毎日のようにいろいろな活動を楽しみました。

その中でも大きなイベントになったのが「スマイル水族館」と「スマイル動物園」です。

いつもの活動室を水族館や動物園に見立て、壁や天井などを装飾したり、動物や海のいきものでいっぱいこしたりして、水族館や動物園の「体験」をするという企画です。

朝、1階へ「出発」するところから始まり、戻ってくるとそこは「スマイル水族館」に。チケットを渡し室内に入ると、幻想的なクラゲや、子どもたちが作ったユニークな生き物たちが泳いでいます。しばらく見学した後はみんなで水族館の気分を味わくべく、大型映像で魚の映像を見たり、海の生き物クイズ大会をしたりと盛り上がりました。昼食のランチョンマットも水族館のイラスト入りという念入りさ。午後には、スタッフによるアシカショー(熱演、芸達者)も見学。輪を投げたり魚をあげたりとみんなで大笑いして盛り上がりました。

2日目は「スマイル動物園」です。手作りのライオン、しましま等いろいろな動物たちが息をひそめる中、スタッフによるジャングル案内がみんなを一層盛り上げてくれました。

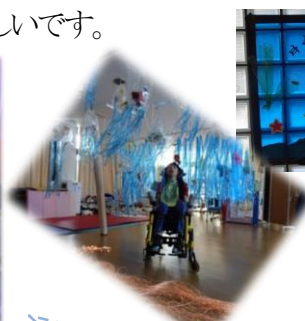
「滝」の中を通ったり、手作りのライオンバスにも乗ったりとたくさん遊びました。

午後はクイズ大会や、またまた熱演の「パンダショー」と笹のえさやり体験も(笑)。

おっかなびっくり笹をあげている子ども達が可愛らしかったです。

準備は大変なところもありましたが、みんなで楽しむ経験は本当に思い出深いものになりました。子どもたちにとっても今年の夏の思い出の1つになれば嬉しいです。

(担当:岡村)



アシカさんにとって～



ジャングルではおおきなヘビが！



ライオンバス
乗り心地さいこ～



笹どーぞ！

あゆみの家成人部

あゆみの家成人部(生活介護事業)

新型コロナウイルス感染症と重症化を回避する為に、今でも施設利用を控えている方がいらっしゃいます。リモート支援の一環として、春から継続してお電話で様子をお聞きたり、施設の様子をお伝えしています。又、制作活動で作成したものを写真に収めて葉書を作成し、送付するなど、日々の様子をお届けしています。感染症予防対策としては、基本的な1ケア1手洗いを徹底的に奨励し、建物内の消毒の回数を増やしたり、換気を定期的に行っています。

～歓迎会～

8月24日(月)、4月に行えなかった小泉彪さんと7月末に入所の北角有希さんの歓迎会をしました。小泉さんの生まれた年の音楽で他利用者様と笑顔を交わし入場しました。みんなから「ともだち賛歌」の歌をプレゼントし、ジュースで乾杯しました。最後に二人と利用者代表の高橋さんとお互いに「よろしく願います。」と、挨拶あいました。



～日々の活動の様子～

午前中はストレッチや様々な姿勢をとる運動の時間を多く設けています。午後は創作やレクリエーション、リラクゼーションを行い、日々コミュニケーションを楽しみ深められるようとりくんでいます。



PTと一緒に運動



ティータイム



今日も元気に 1.2.1.2...



お誕生日おめでとうございます



あゆみでの一日



何ができるかお楽しみ 真剣に創作頑張っています



これからも楽しい活動を提供していきます。(担当:高野・水野)

ライフサポートつばさ 新商品開発中

ライフサポートつばさ(生活介護事業)

2020年度は新型コロナウイルスの影響で世界中の人々の生活が大きく変わってしまいました。ライフサポートつばさの利用者様は、感染予防対策に配慮しながらも、できるだけ今までと変わらない生活を送り、お元気でお過ごしです。

「変わらない」ということを本当に有難く感じています。

事業所としても、三密を少しでも避けられるよう送迎車を増便したり、高さ2m程のパーティションで空間を分けたり、扇風機で換気の質を高める努力等を行っています。また、コロナウイルス感染症と重症化を回避する為に、今でも施設利用を控えている方もいます。リモート支援の一環として、電話で直接お話ししたり、朝顔の種を送付すると、「自宅でも咲きました」と、育てた記念として「朝顔の押し花」を事業所に届けて頂きました。

社会の自粛ムード、学校の休校等のあおりを受け、自主製品の売上げがなかなか伸びていきません。それならば、今は新商品開発の時期だと切り替え、新しい作業に取り掛かっています。

いくつかの案を職員が持ち寄って試作品を作り、作業工程やコスト等を考えた上で、利用者の皆様に諮り、新たに始めた内容が、①紙漉き、②羊毛フェルト、③アロマストーン、④和紙染め、⑤商品包装用ポチ袋作りです。それぞれ、利用者様の力で出来るよう、また当然商品としての仕上がりも考慮しながら、あれこれ作業方法や道具に工夫も必要です。どのような製品に仕上がるでしょうか。暑さが治まる頃には、それぞれ形になっている予定です。

今年は残念ながら、地域の方々と繋がる大きな行事も中止となってしまいました。商品開発と同時に、市場開発にも乗り出さなければなりません。

これからも、頭を使い、身体を使い、ライフサポートつばさはフル回転で活動していきます。

(担当:市川)



コロナ時代のひだまりの1日

ホームヘルプひだまり(居宅介護事業)

コロナ感染者が拡大し、マスク生活がすっかり日常化してもう半年以上になります。

ホームヘルプひだまりでも、通所前の準備や入浴支援、休日の外出支援など、利用者さんやご家族の方に安心して普段通りの生活をしていただけるよう、各ヘルパーにマスクやアルコールスプレーの配布をしたり、移動中の密をさけての行動の徹底を呼びかけるなどしています。とは言うものの、まだまだ今まで通りに外出を楽しめる訳でもなく、大半の利用者さんが、休日はあゆみの家の建物の中の広いフロアで過ごされています。

そんな中、少しでも楽しい時間になればとみんなで北海道のスイーツをお取り寄せしたり、地元のケーキ屋さんのケーキやアイスクリームを味わったりしながら、「次はいつにしよう?」「今度は何を食べよう?」と毎回盛り上がります。そんなひとときは貴重な情報交換の場にもなり、「先日映画館に行ってみたけど、観客の人数もしぼられていて、安心して観賞できた」「サーカスに行ってきました!」などなど、いろんな話を聞いて、利用者さんもヘルパーも、ちょっと先のお楽しみを想像するいい機会になっています。

余談ですが、コロナ感染拡大が始まりマスク不足が話題になっていた頃、利用者さんとヘルパー2名で東村山の水道道路を歩いていた際、マスクをつけていない利用者さんと私を、小さな男の子が見ていて、お父さんになにやら内緒話をしました。するとそのお父さんが私たちのそばに来て「マスクお持ちでなかったら差し上げましょうか?」と申し出てくれたのです。誰もが一枚でもマスクを確保したかったあの時期に、なんともあたたかい心遣いを頂いてとてもうれしかった出来事がありました。

まだまだ先は見えませんが、感染予防につとめ、元気に明るく毎日を過ごして行きましょう!

(担当:星)



硝子戸の向こう

連載企画 第17回

理事長 福岡憲二

新型コロナウイルス感染症蔓延を超えて

—新自由主義の終焉と新世界の社会・経済体制は—

内田樹(うちだたつる 神戸女学院大名誉教授、フランス現代思想・文明論専門)は、東洋経済8月号で、新型コロナウイルス感染症蔓延後の国際経済の方向性として“新自由主義(国の経済的役割を見直し、肥大化した範囲を小さくしようとする考え。レーガノミクス、サッチャリズム、中曽根行革など。小さな政府を志向した。)が終わることは避けられないだろう”(同紙 p55)と指摘しています。続けて、“新自由主義の原則は「選択と集中」であり、最も生産性の高いセクターにすべての資源を集中させ、生産性の低い分野は切り捨てる。けれどもこの考え方は感染症とは真に相性が悪い。”と。

新自由主義経済では、必要なものは、必要な時に必要な量だけ調達する。いわゆる「ジャスト・イン・タイム生産方式による在庫ゼロ」が金科玉条として信じられてきました。しかし、今回のコロナ禍状況下では、例えばマスク、消毒液、防護服、人工呼吸器などは、新自由主義下の平常時では、特別な場合を除いて、収益を圧迫する「無駄」でしかないものであったと。

だから例えば、マスク生産を外国にアウトソーシングしていたことも、全国の保健所数を行革の一環で徹底的に減らしたことも、新自由主義・合理主義下では当然であったけれども、今回のコロナ対応ではそれが逆目に出て、手痛いしっぺ返しを受けたといわれています。

さて、コロナ以降はどんな社会・経済体制が望まれるか。内田氏は最優先されるべきは、エネルギー、食糧、医療、教育を「自前で調達できる国づくりである」と。日本はエネルギーや、食糧にしろ、教育まで(ハーバード大などにエリート教育を任せてしまっている。)他国にどんどん任せて資源の自給率が全般的に下がって、水準も劣化している。かろうじて医療だけは「アウトソーシング」出来なかったおかげで、水準を維持できている、と皮肉っています。

新型コロナウイルス感染症の影響の特徴は、従来のように人、物、金、情報などいわゆる経営資源が自由に飛び交う時代ではなくなることです。

特に「人」が国境を越えられないので、その環境に適した最適解を探るしかない。必要なものは自国内で調達する。調達できないものは代用品で済みます。水野和夫法政大学教授などは、もう右肩上がりを追うのをやめて、買い替え需要だけで経済を回す「定常経済」(注釈1)を提案しています。

経済成長なしの閉鎖的経済社会です。これは日本の場合考えられない。コロナは人の健康を侵し、医療を崩壊させ、経済を麻痺させ、政治体制にも壊滅的打撃を与え安倍総理もあえなく辞任しました。人類の脅威と言わねばなりません。

歴史を振り返ってみますと、人類はペストやコレラなど感染症と何世紀にも亘って闘ってきながら、結果として根絶はできず、妥協して共存せざるを得ませんでした。その副産物として、東大寺の大仏が開眼し、ニュートンの万有引力の法則が生まれ、第一次世界大戦が早期に収拾されたと聞いてはいますが、しかし、今後は、出来れば、妥協などは選択肢に入れたくはありません。また、「定常経済」に永続性は感じられません。

中西寛京大教授は朝日新聞 8.21 朝刊で“コロナ危機に政府は支出を拡大して対応したが、ショックの大きさから考えればやむを得ない。しかしこのやり方が、コロナ対応だけでなく、中長期を考えると持続可能か、適切か、改めて考える必要がある、と。

1980 年代以降欧米では「小さな政府」が主流になったが、今回、医療や防災の重要性が見直され、「大きな政府」への流れが強まる可能性がある、と。

コロナだけではなくて、世界中で災害が増え、地球温暖化も進んでいる。公共の役割が必要な中、国民に対する政府の役割を再定義する時にきている、と。米英で経験している極度な所得格差や、政治分裂を産む成長重視の市場化は望ましくなく、経済成長はある程度、犠牲にせざるを得ない中で、中産階級を支えるような政策を国民に提示していくべきだ”と発想の転換を求めています。

寺島実郎(日本総合研究所理事長)も「世界」9月号 P77 で、コロナ禍の後は”「経済」という言葉の由来でもある「経世済民」に還って国民に幸福をもたらす産業構造を再構想する必要がある“と。そして”豊かさをもたらす産業化から、国民の生命を守り、安心・安全と幸福を図るための産業化へ視界を転じるべきである”と言っています。

そのような新しい社会・経済体制下では、医療と密接な関係にある老人福祉、障害者福祉などの観点からみれば、これまで以上に、個人の尊厳と、多様性が尊重され、人と人が信頼しあい、時間と空間を共有する、より一層強固な、人的社会資本(注 2)が形成されていくことが期待されます。勿論、そこではソーシャル・ディスタンスは苦い思い出となっているでしょう。

以上

(注1)定常経済

一定の物理的な財産と一定の人口規模から成り立つ経済。実際にはこのような経済は時間的経過において成長しない。活発な経済活動が繰り返されているものの、その規模自体は拡大しない。経済成長を目標としない経済。ゼロ成長経済とも表現される。

(注2)人的社会資本

信頼関係。取引や協力、信用供与、権利・義務などのコストを軽減し、個人の限定的な情報力、判断力を補う。本来、国民が生活する上で必要な公共福祉と経済を支える基礎構造。 ✎



— 法人いずみに興味のある皆さん、見学に来てみませんか —

今年も、特別支援学校卒業後の進路先の検討の為、高等部の方の体験実習が始まります。小学部や中等部の保護者の方の見学会のご要望もいただいています。

全事業所、年度途中からの利用も可能です。お気軽に各事業所までご連絡、ご相談下さい。

| | | | | |
|-------------|---|---------------------|------------------|--------|
| ○生活介護事業 | : | あゆみの家成人部 (入浴サービス 有) | Tel 042-394-6667 | 担当: 亀井 |
| | | ライフサポートつばさ | Tel 042-394-1761 | 担当: 市川 |
| ○児童発達支援事業 | : | あゆみの家幼児部 | Tel 042-393-7588 | 担当: 田中 |
| | | ひまわり (入浴サービス 一部有) | Tel 042-306-3072 | 担当: 梶沼 |
| ○放課後等デイサービス | : | ひまわり (入浴サービス 一部有) | Tel 042-394-7231 | 担当: 梶沼 |

- 編集後記 -

暑い夏がやっと終わり、気持ちのいい季節になってきました。行楽シーズン到来です。しかし今年はその訳にも行きません。

ならば自宅で楽しめることを。読書、DVD観賞、そして食欲の秋。先日ベランダに七輪をだして焼き肉をしている家族を見ました、私もやってみよう！

健康でいられることに感謝しつつ、小さな秋を謳歌したいものです。



法人いずみでも職員室、事務室などに透明の亚克力板のパーティションを取り付け、安全に会議など行っております。

発行元：社会福祉法人いずみ
東村山市富士見町 3-3-4
Tel 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族の了承を頂いております。